

窓辺

地域への恩返し

まえだ
前田 しのぶ

大井川鉄道では二つの願掛け商品を販売している。

一つはSLの動輪の空転を防ぐ「滑らない砂」。もう一つは自分の願い事を書いてSLの釜で炊く「護摩木」。受験シーズンや新年には多くの方が購入する名物になっている。

代表就任直後の全従業員との面談で、あるベテランの運転士から提案を受けた。地域への恩返しの方法を以前から考えていた運転士は、通学利用してくれている高校受験を目前にした

地元中学生に、お守りとして「滑らない砂」と「護摩木」をプレゼントしたいという。

私はすぐにその提案を採用し、提案者主導で各中学校への趣旨説明や、沿線4校の受験生約400人への贈呈の準備を整えてもらった。また、千葉山智満寺にてご祈とうを依頼した。その後、提案者と共に沿線の学校を回り、ある学校では受験生全員の前で進呈式も行った。受験当日には他の運転士のアイデアで、乗車

中の受験生に向けて応援アウンスも実施した。

これらの恩返し施策は、毎日の利用で顔なじみになった地域の子供たちの人生の岐路を応援したいという純粋な思いが形となったのだ。

企業の地域貢献には雇用の促進や納税などさまざまな手段がある。しかし、そのような金銭的なものが全てではない。生活に密着している公共交通だからこそできる地域への恩返しがあってもよいのではないか。

この年末も大井川鉄道では、春の受験生を応援する準備が始まっている。

(大井川鉄道社長)